おちほ

第91号 平成30年8月31日　発行　　社会福祉法人　椎の木会　**落穂寮**　発行者　太田正則
TEL 0748－77－2299　FAX 0748－77－5588　http://ochiho.noor.jp/

七夕フェスティバル

夏の風物詩である七夕。今年も落穂寮では七夕フェスティバルを開催しました！

今年は新人職員が3人＋ベテランの職員が1人の計4人による職員劇をお披露目しました。

劇のテーマは少しアレンジしましたが、元は国民的な童話の白雪姫です！出演者は自分のキャラの服装に着替えて演出しています。

多忙なスケジュールの合間を縫って出演者が集まり、小道具や背景、劇の練習をしたり、踊るダンスを練習したりしていました。挫けそうになったこともありましたが先輩からの応援もあり、「利用者さんに楽しんでもらいたい」という思いが強くなり、一生懸命取り組むことができました。

劇のストーリーは世界で一番美しいと思っていた魔女と白雪姫のストーリーです。

西村stの白雪姫役は会場の多目的学習室を笑いで包みました。最後は利用者さんを巻き込んでぱわわぷ体操を踊りました。おおはしゃぎされている利用者さん、笑顔で楽しまれている利用者さんを見て、とても大きな仕事をやり遂げた達成感がありました。とても楽しい時間を過ごすことが出来ました！

悲しいノート

理事長　山下陽一

結愛ちゃんのノート

また幼い命の灯が大人たちの盲点のうちに吹き消されました。

これまでで最もかなしい
ひらがな文を遺しぬ五歳の女児は
（仙台市　武藤敏子）

右は朝日歌壇（２０１８・７・８朝日新聞）に掲載された短歌（永田選）です。

事件報道によると、同年三月義父と実母から虐待を受け、亡くなりました。結愛ちゃんは五歳でした。今はまだ捜査中で事件の詳細は発表されていないのですが、身体にはアザがあり低体重で日頃から虐待を受けていました。捜査の中で大学ノートに「もうゆるして」という鉛筆書きのひらがなの手記が残されていました。

もうパパとママにいわれなくても
しっかりとじぶんからきょうより
もっともっとあしたはできるように
するからもうおねがい　ゆるして
　ゆるしてください
　おねがいします
ほんとうにもうおなじことをしま
せん　ゆるして
きのうぜんぜんできなかったこと
これまでまいにちやってきたこと
をなおします
これまでどれだけあほみたいに
あそんでいたか
あそぶってあほみたいなことを
やめるのでもうぜったいやらない
からね　ぜったいやくそくします

この手記が報道された後、幼い少女の虐待死が家族内の特異な犯罪ではなかったことが大きくクローズアップされました。周囲の大人たちはすでに知っていました。報道によると香川県善通寺に住んでいたころから、義父の虐待は二回書類送検されたのですが、立件されず不起訴処分となっていました。このような家族間の虐待について、社会的に大きな問題になっているにも関わらず、旧態の家族に基本を置く法制度はこのような事件に適切に対処する仕組みなっていないのではないでしょうか。

制度のはざま

義父は事件を起こしたため善通寺に住めなくなったのでしょう。そして少女に恨みを抱いたまま、東京目黒に転居したようにも見ることができます。

その昔から「連れ子」は往々虐待を受けると云われるようです。

義父に実子が生まれた後、彼女に対する態度が豹変したとも報道されています。義父は「連れ子」のいちいちが気に沿わずそれが次第に増幅されていったのでしょう。これは義父の育った小さい頃の複雑な家庭環境が影響しているのかもしれません。

家から裸足で放り出され、それを警察官が発見し香川県の児童相談所で一時保護されていたこともわかりました。しかし、しばらくして自宅に戻されています。

そして東京に移り住みました。香川県から引き継ぎを受けた品川児童相談所は家庭訪問をしましたが、実母の「児相には嫌な思いをした」などの拒否的な態度に遭い少女を確認することができませんでした。事件後、児相は「母親と関係を築けるよう対応を検討していくところだった。事件を重く受け止め対応を検証したい」と述べています。

このような事件が起きるたびに制度の在り方が問題にされ、今回も児相の職員数を増やすと都知事は発言しているようですが、このような事件は今ある制度の「すきま」にどう対応するのか、それがキーポイントだと思います。職員数増では解決できないのではないか。

いつも「もう一歩踏み込んでいたなら…」という思いをすることしばしばですが、この「一歩」は上乗せの一歩ではなく、「異次元の対応に踏み込むほどの一歩」なのです。ひと昔前のことですがヤクザまがいのお兄さんと髪振り乱すようにして渡り合っていた民間機関のケースワーカーを知っています。この気迫あるケースワーカーの仕事ぶりを見ていると制度の「すきま」は人の手立てで当たるより他はないと実感したものです。

結愛ちゃんへの虐待は「近所のおばさん」も「児相」も「警察」も知っていました。それにも拘わらず彼女のSOSの発信を深刻なケースとして把握することができませんでした。その口惜しさもあったのでしょう、警視庁捜査一課長は前掲のひらがな文を声を震わせてハンカチで目元を抑えながら発表しました。（２０１８・６・７東京新聞朝刊）。

深く「銘」として「もうゆるして ゆるしてください」

これは「悲しいことばの究極」といえるのではないかと思うのです。ノートの発見は日本全国のみならず世界に発信され多くの涙を誘ったことでしょう。つまるところ、私たちは彼女を悲しみの極限まで追いやった側に与(くみ)していたのではなかったか？そして、彼女は全く罪がない身で「私たちの罪を背負って苦しみながら逝ってしまった」ということではなかったのか。

社会の片隅で最も弱い立場にあった五歳児の彼女のただただしいけれどこころの底から滲み出たことばは、将来に渡る警鐘の「銘」として永々と伝えなければなりません。

（二〇一八・七・八）

備えることの難しさ

寮長　太田正則

まさかに備える

この原稿を書く前に大阪を中心とした大きな地震が発生しました。そして、書いている最中に平成最大の被害と言われる西日本豪雨災害が発生しました。これまでに亡くなられた大変多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されました皆様にお見舞い申し上げます。今回の地震では、耐震基準を満たした建物であっても、それに付随したものに対策がなされていないと意味がないことが明らかになりました。倒れてきた家具の下敷きになって亡くなられた方が半数おられたからです。ハード面の充実は基本として大切ですが、そこにソフト面の想像力を添えなければ本来の目的は達成されないという事だと思います。「もし」という想像力があれば、ブロック塀が崩れてくることを想定して何らかの対策がなされていたかもしれません。経験したことのない出来事はもちろん、久しく起きていない出来事を常に意識しておくことはとても難しいことだと前回の紙面でお伝えしましたが、持続することが難しい緊張感を、尊い命を亡くさないためにどうすれば保つことができるのか、そしてその仕組みをどうすれば多くの人に身につけてもらえるのか。最終的に本当に守りたいものは自分の責任において取り組まなければならないのかもしれません。

育ちに備える

新年度が始まりました。三年ごとの見直しにより、必要な人に必要な支援が届けられるために、また、より質の高い支援が提供されるために、新たなサービスの創設や報酬改定がおこなわれ、この四月から「そろそろ」と動き始めています。支援を提供する側は、これまで独自で利用者の豊かな生活に必要な支援を提供してきたことが認められ、制度として整備されることで確実に支援提供できるようになり、安定した生活を保障することができるようになった事業所があります。一方、これまでしてきたことが評価されず、支援提供の継続が困難になってしまい、利用を止めざるを得ない利用者を前に、事業の継続と利用者の生活保障の間に立たされ、心を痛めながらも事業を停止せざるを得なくなった事業所があります。経営努力だけではどうにもならない地域性を考えると、課題は多くありますが、それぞれの地域性に応じた柔軟な制度設計が必要なのかもしれません。その中で、当寮の活動から見えてくる報酬改定のポイントは二つあります。一つは高齢障がい者の問題。もう一つは意思決定支援の問題です。前者に対応する一つとして「日中支援型共同生活援助」事業があげられます。地域生活を支援してきた共同生活援助（以下「グループホーム」と言います）事業所は、日中は就労など別事業所で活動されていることが前提となっています。しかし、高齢に伴い就労が困難になり、心身機能の低下により外出も難しくなるとホームでの日中支援者の人件費が賄えず利用継続が困難となり、退去を余儀なくされてしまうことになります。施設入所ではなく、長年住み慣れた場所での生活継続には必要な制度と言えます。この制度は、入所施設におられる生活の安定した重度の方の地域移行も視野に入れたもので、その意味では当寮においても将来構想の一つに入るものと言えます。後者に対応するものとしては、「相談支援事業」の報酬改定があげられます。これまでの相談支援事業の制度設計は、ハードルの高い加算要件をクリアすることで成り立つもので、多くの事業所は赤字予算で事業開始するというものでした。当然人員を増やすことはできず、殆どの事業所の相談支援従事者が別事業と兼務することで人件費を賄うというものでした。このことから相談支援事業所は増えず、相談員不足によりアセスメント等が不十分なものとなることで、本人の意思を十分に反映したものと言えない計画であったり「セルフプラン」で済まされるという状況にありました。そこで加算要件のハードルを下げることで事業収入を増やし、相談支援専門員の増員を促し、一人ひとりの思いを丁寧に聞き取る中で意思決定支援が行われ、当人の意思が反映された計画になることを目的としていると思います。当寮は、児童施設から始まったことから、障がい児相談支援事業を実施しており、圏域の中で必要とされているところに、また、必要とされている方に支援を届ける事が出来ればと考えています。

さて、これまでのお話は現在の障がい福祉の現状課題に対応した内容になっていますが、それらの多くはインセンティブを働かせたものとなっています。つまり、目的（成果）が達成されることが前提となっているため、その見込みが立たなければ取り組みを始めることは難しくなります。私たちが支援している方々は、明日のことを語ることが難しい方々であることを考えると、それを前提に見込を立てることは「無謀」であり、計画性のある事業とは思われないでしょう。しかし、明日が見えないからこそ《起こりうる出来事を想定した対応》ができる《体制をとることができる余裕（報酬）》が必要なのかもしれません。

立ち止まって、足元を見て、周囲を見回して、大切な人を守るために、これから何に取り組めばいいのか、皆で考えていければと思います。

（二〇一八・七・一〇）

皆さん、はじめまして、今年度の4月から男子棟で働かせていただくことになりました**西村玲央斗**（にしむられおと）と申します。よろしくお願いします。

僕は今までの人生のなかで、障がいを持つ方と触れあったことがなく、今は利用者の方の気持ちにあった支援をすることにとても苦戦しています。

そんな僕がこの落穂寮に就職しようと思ったのは保育の専門学校に通っていた時に2週間の生活施設実習で、この落穂寮に来させていただいたのがきっかけです。それまで僕は健常児といわれる子どもしか見てこなかったので、初めて障がいを持つ利用者の方とかかわり、障がいという世界に触れました。そういうことがあり、障がい者の施設で働きたいなと思い、御縁がありましたこの落穂寮に就職しました。僕自身、専門学校で学んだ知識しかないので少しずつ学んでいき一人ひとりに合った支援ができるように頑張っていきます。先輩方にはまだまだご迷惑をおかけすることがあると思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

一月からお世話になっています**石田美津子**（いしだみつこ）です。私には子供が四人います。同じように育ててもそれぞれ違います。これまでに色々悩み大変な時期もありました。障害についても本を読んだり講演を聞きに行ったりしながら子供と過ごす中で自分の関わり方ひとつで良くも悪くもなることを知りました。利用者さんとの日々の関りも同じだと思います。自分の関わり方で笑顔が見られたらとてもうれしいし逆に利用者さんの純粋な心を傷つけたくないなと強く感じています。そのために、利用者さんのちょっとした変化に気づいたり伝えようとされている事を分かれるよう、そしてみなさんの笑顔を引き出せるような支援を心がけていきたいと思っています。なかなか仕事を覚えられない私に詳しく丁寧に教えていただきありがとうございます。そしてこれからも利用者さん一人一人の事や、生活支援に必要な事をもっと覚えていきたいと思っています。まだまだ未熟な私ですが、これからもご指導よろしくお願いします。

◆新人紹介 Vol.2018◆

初めまして　平成三十年三月より落穂の厨房で調理員として働かせて頂く事になりました。**林重之**（はやしげゆき）です。昭和三十一年二月生まれの六十二歳です。落穂に来る以前も老人ホーム、病院、障がい者施設などいろいろな所で給食の仕事をしていました。だから落穂に来る時も仕事に関しては別に心配はしていなかったんですけど、新しい環境でまたいちから人間関係を築いていくのに多少の不安もありました。でも考え方ひとつでまた、新しい出逢いがあり新しい人とも知り合いになれると思うと少しは気持ちも楽になりこれからは何でもプラス思考に考えるようにしました。これからも利用者さんに安心安全で美味しい食事を提供できるように厨房全員で頑張りますのでよろしくお願いします。また新しいメニューにも挑戦したいなと思っています。

本年一月より調理員として働かせて頂いております、**西尾妙子**（にしおみよこ）と申します。以前から調理の仕事をやってみたいと夢みていましたがなかなか条件が合わず、何年も淡々と日々暮らしていましたが今回こちら落穂で働かせて頂くことになりました。日々やり甲斐もあり日々発見もあり日々反省もありと毎日楽しく過ごさせて頂いております。

半年が過ぎ、少しずつ利用者さんの名前や顔も覚えられてきました。まだまだ未熟な調理員ですが、皆様に美味しいご飯と笑顔を届けられるように頑張ってまいります。どうぞよろしくお願いします。

氏神祭

平成30年5月1日。毎年恒例の氏神祭が今年もやってきました！昨年は直前に雨が降ったため残念ながら中止になってしまいましたが、今年はお天道様が微笑んでくださったため、見事に雲ひとつ無い良いお天気となりました！みんなでお揃いの法被、ハチマキをつけていざ出陣‼

今回のお神輿はディズニーより、ディズニーツムツムのキャラクターのミッキーとプーさん、そしてベイマックスです。前回お披露目することが出来なかった2つのお神輿を今回やっとお披露目することが出来ました！本当に良かった…。暑い中でしたが一麦のみなさん、近江学園のみなさんと一緒に掛け声を行いながらお神輿を持って東寺グラウンドまで歩きました！お疲れ様です…！グラウンドに到着した後はジュースを飲んでひと休み。暑い中頑張ったので、ジュースがいつも以上に美味しく感じました！その後は各寮のお神輿の紹介をしました。他の寮のお神輿も凄いけど、可愛さや完成度は落穂寮も負けてません！

最後にみんなで記念撮影をして寮に帰りました。暑い中でしたが本当にお疲れ様でした！

第68回開寮記念日

落穂寮の誕生日を祝う「開寮記念日」が今年も五月一日に行われました。今年で落穂寮も六十八歳、人間でいえば、既に定年退職の年齢ですが、元気な利用者さんもいっぱいでまだ現役バリバリ、といったところでしょうか。お祝いの式典は多目的ホールでの昼食会。メニューはお炊事の職員の皆さんが用意してくれた「ねぎトロ丼」です。会場の準備が整うと、皆さん生活棟から移動して着席。目の前のお皿も気になりますが、今日はお祝いの式典。ここはぐっと我慢して、まずは施設長のお話。パチパチパチ（拍手）引き続いて勤続者の表彰が行われました。パチパチパチ（拍手）そしてお待たせしました、叩いていた手を今度はパチン（合掌）、「いただきまーす」

メインのねぎトロ丼に今が旬の竹の子の煮物にサラダ、フルーツのデザートなどなどをあっという間に完食される方、マイペースでゆっくり食べる方、それぞれ食べるスピードは違ってもお祝いの楽しい空間を共有することが出来ました。あまり変わり映えのしない行事ですが、落穂寮では、変わらない事は、変わっていくことと同じく大事なこと。この先、毎年変わらずお祝いを続けていければと思います。

男子棟 春の遠足

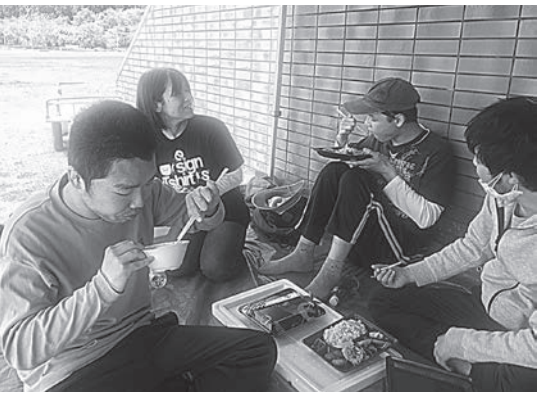
木々達が芽吹き新緑が春先に映える季節になりました。今年は、さわやかな晴天に恵まれ、男子棟恒例春の遠足に行って参りました。今年も利用者各グループへ分かれていただき、それぞれのグループに合った移動手段で心弾ませ一斉に松籟公園へ向かいました。各グループの利用者さんが順番に松籟公園へ集結し、お弁当の時間になるまで公園内を散策されたり、東屋で涼んだりして一息ついていただいています。そして待ちに待ったお弁当タイム！大きなブルーシートに皆さん集まって春を感じるお弁当を美味しそうに召し上がっておられました。今回のお弁当はハンバーグに炊き込みご飯に盛り沢山なお弁当でしたが、中にはあっという間に完食される利用者さんもおられました。昼食後は再び自由時間を過ごしていただき、公園内の草花を眺めつつ春を感じられる方、職員と一緒に丘を登って散歩される方、一緒にかけっこをされる方など、皆さんそれぞれ思い思いの時間を過ごしていただき、楽しい遠足となりました

通所メンバー 春の遠足

今年も毎年恒例の遠足へ、普段支援棟にて一緒に昼食をとっているメンバーでお出かけしました。遠足といっても、体力や身体能力がバラバラのメンバーになるので、目的地まではみんなで一緒に車に乗って向かいました。行き先は、鹿深夢の森。今日は普段とは違い、とても見晴らしの良い広場で、自然に囲まれながらおいしくお弁当をいただきました。

天候にも恵まれ、過ごしやすい一日になり、食後は丘の下までお散歩したり、長い滑り台を楽しんだり、トランポリンの上でジャンプしたりと、とてもアクティブに楽しい時間を過ごせました。

遠足での様子を保護者の方に伝えさせていただいたところ、遊具で遊ぶことが意外だったと口にされたり、楽しく過ごすことができて良かったと喜んでくださいました。今日はとても充実した一日にすることができました。みなさんおつかれさまでした。



女子棟飯盒炊飯

今年の女子棟の飯盒炊飯は、例年の時期や天候と、4月の恒例行事である春の遠足が雨天中止になってしまい、みんなのお楽しみが一つ減ってしまった事も踏まえて、6月1日にブルーメの丘で室内バイキングバーベキューを開催しました。

事前の準備で職員があたふたすることも無く、代わりに最初から利用者さんと一緒にわいわい楽しみながらスタート。各テーブルごとに職員が肉や野菜を焼いて、まだかなまだかなと待って焼けたらいざ「いただきます。」をしました。

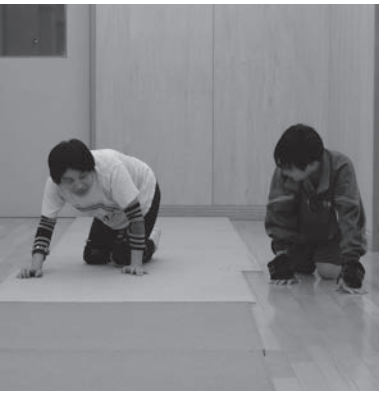
各テーブルの職員が焼く係、食材を持ってくる係と手際よく動いている間に美味しそうにお肉を頬張る利用者さんの笑顔を見守りながら楽しいバーベキューとなりました。せっかくのバイキングなので今年も少し特別に（栄養士さんには内緒ですが）お腹いっぱいいただきました。

食後は、時間いっぱい楽しみました。ブルーメ内を一周できるチュー―チュートレインに乗りました。その他にも、芝生の滑り台をする利用者や、お花を眺めながらのんびり散歩をしたりと、いい天気にも恵まれてしっかり食べてしっかり遊んだ飯盒炊飯でした。

また来年も楽しい飯盒炊飯ができますように…。

ふれあい交流会

6月15日に今年も石部中学校の1年生15名がふれあい交流に来て下さいました。利用者さんにとっては毎年恒例行事ですが、交流に来てくれる学生さんは初めての事でドキドキ感が伝わって来ていました。今回は午前中のみの関わりになりますが、普段入ることのない場所での関わりで何を感じていただけたかとても気になる所です。障がいを持った方と深く関わったことがない方が沢山おられましたが、来てくれたことが嬉しいことを表現される利用者さんのリードで楽しいひと時が過ごせたように感じます。次は秋にお待ちしています♪



今年は『殺人的な猛暑』と言われるくらいの暑い日が続いていますが、毎年恒例になっている夏限定プールの季節がやってきました。利用者さん達が楽しむために、居宅介護事業所の職員を中心に、これまた暑い日にきれいにプール掃除を実施しました。一昨年前に改修工事を行った事でだいぶ掃除は楽にはなったものの、楽になった分暑さが上乗せされている今年は午前中だけで十分ヘトヘトになっていました…

プール？温泉？

掃除が済み、綺麗な水を張ったプールには待ちわびた利用者さん達が早速入り楽しまれました。

夏休みも始まり、プール利用の最盛期を迎えます。涼しげな様子ではありますが気温が高いと水温も高くなり、〝おちほ温泉〟の状態になってしまいます。今年は使用基準を設け熱中症対策を行い、事故等が起きないように万全の配慮をした上で、プール遊びを楽しんで行きたいと思います。

救世主現る！

石部南まちづくり協議会の7名が夏を迎える前に、寮内の環境整備の為に草刈りに来てくださいました。

緑が多く自然豊かな所を来寮される方に褒められることが多くありがたいのですが、草刈りに職員の手が回らず、伸び放題、生え放題の状態になってしまっていました。そんな時に救世主ともいえる「草刈りに行ってあげるわ！」とのお声掛けをいただき、夏前に刈り取って頂けることになりました。

梅雨前と言えども、暑い為朝早くから始めて下さり、日勤の職員が出勤した頃には、敷地内がすっきり様変わりをしていました。

暑い中除草作業していただけることも大変ありがたく嬉しいですが、地域の方に気にかけていただけているこの関係がより嬉しくもあります。今後も地域の方とお互いに協力し合って行ければと思います。

ご協力ありがとうございます

平成30年7月末現在

社会福祉法人椎の木会及び落穂寮の運営にご協力いただいた方に、この場を借りて御礼申し上げます。今後も変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

〈備品の寄贈〉

河本文教福祉財団

〈物品の寄付〉

黄之瀬　節子

（敬称略）

ありがとうございました。

泉

新年度が始まりました。今年も落穂寮をよろしくお願いします。

さて、今年は梅雨が大雨による未曾有ともいえる大災害で終わった後、異常ともいえる猛烈な暑さが続きました。また、あり得ない事を「朝日が西から出る」という諺があるそうですが、七月の猛暑の後には台風が東から西へ向かうというそれこそ「あり得ない」ことも起きました。落穂寮でもこの想定外の暑さで、いつもなら元気に外に歩行に出る人たちも熱中症予防で屋内を歩いてもらうなどの対策が必要になりました。このような状態がこれから毎年続くのでしょうか？何十年後かにはお金のある人は皆北海道に移住しているかもしれません。地球の気候を変えてしまったのは人間の責任かもしれませんがそれを戻すとなると一筋縄ではいきません。それまでは、まずは目の前の人たちの健康を第一に支援に取り組んでいきたいと思います。

木言（こと）

春夏秋冬
夏夏冬冬
しゅんかしゅうとう
かかとうとう
はるなつあきふゆ
なつなつふゆふゆ
四季はどこいった？